

精神科（4週）

研修目標

精神医学全般について実践的な知識と技術を身に付ける。さらにリエゾン精神医学の視点から身体疾患における心・精神の関与について学び、診断・治療技法を修得する。

①面接の基本

患者および家族から病歴・生活歴などの情報を適切に聴取できる。
聴取した情報を整理して病歴・生活歴をまとめることができる。
患者・家族との関係性を構築できる。
患者および家族への精神科面接技法の基本を理解し実践できる。

②症状把握・診断

患者の個々の精神症状と状態像が把握できる。
精神症状評価尺度（BPRSなど）を用いた評価ができる。
痴呆に関連した簡易尺度が使用できる。
意識障害（せん妄）の評価、神経学的検索ができる。
患者の社会・心理・生物学的な病態を多軸的に理解できる。
状態像および疾患圏の診断ができる。
国際疾患分類（ICD-10）およびDSM-IVに基づいた分類・診断ができる。

③検査

神経心理学的検査（SDSなど）を施行し評価できる。
神経画像診断検査（MRI、X線CT、SPECTなど）の結果を読影・評価できる。
脳波検査の結果を判読できる。

④治療

統合失調症の診療ができる。
感情障害（うつ病、躁うつ病）の診療ができる。
神経症圏（強迫性障害、恐慌性障害、解離性障害など）の診療ができる。
てんかんの診療ができる。
摂食障害（神経性食思不振症、過食症など）の診療ができる。
アルコール・薬物依存の診療ができる。
痴呆性疾患の診療ができる。
器質性・症候性精神障害の診療ができる。
児童思春期や老年期など特殊なライフサイクルにおける精神障害の診療ができる。
適切な精神科薬物治療を実施できる。

⑤その他

退院報告書を適切に作成できる。
各種書類（介護保険主治医意見書、通院医療公費負担（いわゆる32条）の診断書など）を作成することができる。
コンサルテーション・リエゾン精神医学の基本を理解し、診療活動に参加できる。
地域精神保健、社会復帰支援活動への基本的理解をもっている。